



第18号
発行所
近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

「緑友会会長挨拶、卒業生の皆様、お元気でお過ごしのことと存じます」
緑友会会長 高谷政広



卒業生の皆様には、平素より農学部緑友会に格別なご支援、ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

本年も全国的に厳しい暑さで長い夏となり、台風や竜巻等の自然災害の影響がありました。皆様ご無事でお過ごしのことと祈念申し上げます。農学部は、平成元年4月にこの地に移転後四半世紀を迎え、今日ではすっかり、奈良の丘陵地の緑豊かな環境に恵まれたキャンパスとしてなじんできました。四季折々の色彩豊かな自然の変化があり、春には満開の桜が新入生を歓迎し、初夏になると新緑の眩しさに目を奪われ、実りの秋には毎日の紅葉の変化を満喫出来、年を越す冬には梅花の香りや2月になると早々とウグイスの声が聞かれる年もあり、早くから春の気配を知ることが出来ます。卒業生の皆様もこのような雰囲気の中に身を置きながら、旧交を温めると共にいしえの都奈良を味わいにキャンパスを訪れて頂くことも良いのではないで

しょうか。
今年は、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）、来年度の消費税アップやアベノミクスなど景気回復の問題があります。富士山の世界遺産登録、2020年東京オリンピック開催決定、プロ野球東北楽天イーグルスの日本一優勝など明るいニュースがあり、卒業生の皆様も共に心を癒され元気が湧いてきたことと存じます。大学本部では、この秋「ホームカミングデー2013」が初めて催されました。皆様におかれましては、引き続きより一層の農学部緑



友会の活動へのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。最後にになりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

ご挨拶

農学部長 宇都宮直樹



秋を深く感じる今日この頃となつてまいりましたが、農学部緑友会の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も夏は酷暑が続き、体力を消耗された方も多かったと思われ。また、9月には台風18号の影

響によって近畿地方には水害が発生しましたが、被災されました方にはお見舞い申し上げます。農学部では、おかげさまでもちまして、平成26年度の実験者数が1万3千人に達し、学部創設以来最大の数となりました。また、9月初旬の農学部における保護者懇談会には、約600人ご参加いただき、相談会で教職員と顔を合わせた機会が多くなりました。キャンパスを見学していただき、

学科の近況

農業生産科学科 矢野 栄二



当学科では、まず先生方の異動につきましてご報告させていただきます。園芸植物学研究室の神崎真哉先生が准教

授に昇任されました。また同研究室の高松善博先生が講師に昇任されました。お二人ともご専門の果樹園芸学の分野における益々のご活躍が期待されます。今年、「園芸療法士」、「アグリビジネスマイスター」の資格取得のコースが始まって3年目となり、今年度末に初めて両コースの資格をもった学生が誕生します。まだ始まったばかりですので、両コースとも今後これまでの問題点の検討を踏まえて、さらに充実した内容にする必要があります。卒業生の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

水産学科 塚正 泰之



当学科では、平成25年3月、漁業生産システム研究室の教授として本学科の教育・研究に長年、ご尽力いただいた山根 猛先生が退職されました。後任として、同研究室に鳥澤 眞介講師が採用されました。鳥澤先生は、数理的分野を基盤とした水産工学と魚類行動学や生理学を融合させた学際的な領域で優れた業績を上げておられます。特に、漁獲プロセスおよび魚類の行動誘発メカニズムを明らかにするために魚類行動学に数理モデルを適用した研究は、水産学の新たなアプローチスタイルとして期待されています。同氏の加入で、本学科の教育・研究がさらに向上するものと確信しています。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農業生産科学科

- 育種工学 (吉田 元信・種坂 英次)
● 園芸植物学 (宇都宮 直樹・神崎 真哉・高松 善博)
● 昆虫生態制御学 (矢野 栄二・香取 郁夫)
● 作物学 (飯嶋 盛雄・山根 浩二)
● 植物感染制御工学 (豊田 秀吉・松田 克礼・野々村 照雄)
● 植物・人間関係学 (林 孝洋・富 研一)
● 農業経営経済学 (宇山 満)

水産学科

- 漁業生産システム (高木 力・光永 靖・鳥澤 眞介)
● 水産経済学 (多田 稔・有路 昌彦)
● 水産生物学 (小林 徹・柳下 直己)
● 水産増殖学 (太田 博巳・滝井 健二・石橋 泰典)
● 水産利用学 (塚正 泰之・安藤 正史・伊藤 智広)
● 水族環境学 (江口 充・永田 恵里奈・谷口 亮人)

バイオサイエンス学科

- エコマテリアル (高谷 政広)
● 植物生態機能学 (ネルソン・ヘンリー)
● 植物分子遺伝学 (川崎 努)
● 植物分子生理学 (重岡 成・田茂井 政宏・武田 徹)
● 生命情報工学 (田辺 寛之)
● 動物発生学 (加藤 容子・谷 哲弥)
● バイオ分子化学
糖質および酵素化学 (深溝 慶・大沼 貴之)
天然物有機化学 (北山 隆)
● 分子生物学 (内海 龍太郎・加藤 明宣)

学科研究室 教員

応用生命化学科

- 応用細胞生物学 (森山 達哉・財満 信宏)
● 応用微生物学 (岸本 憲明・倉田 淳志)
● 食品微生物工学 (白坂 憲章・福田 泰久)
● 森林生物化学 (田中 裕美・板倉 修司)
● 生物環境学 (飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
● 生物制御化学 (松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)

環境管理学科

- 里山生態学 (澤島 拓夫・河内 香織)
● 水圏生態学 (細谷 和海・ジン タナンゴナン)
● 保全生態学 (北川 忠生・早坂 大亮)
● 環境化学 (坂上 吉一・森 美穂)
● 生態工学 (奥村 博司・阿部 進)
● 国際開発・環境学 (八丁 信正・松野 裕)
● 環境政策学 (池上 甲一・前潟 光弘・鶴田 格)

食品栄養学科

- 栄養機能学 (米谷 俊・竹森 久美子)
● 栄養教育学 (川西 正子・明神 千穂)
● 給食経営管理学 (富田 圭子・稲村 真弥)
● 公衆栄養学 (吉川 賢太郎・郡 俊之・蒲 尚子)
● 食品化学 (渡辺 克美・上田 茂登子)
● 生体機能学 (上嶋 繁・山下 里奈)
● 臨床栄養学 (木戸 慎介・上西 梢)

緑友会総会開催のご案内



平成26年度11月3日に第8回緑友会総会を予定しています。(農学部祭期間中)

応用生命化学科

学科長 松田 一彦



当学科では衣・食・住に活用可能な新技術・基礎概念の確立を目指して、化学と生物の境界領域で日々研究と教育に励んでおります。このような分野横断的な研究を強力に推進するためには、教員どうしの密な連携と最新の科学的手法と考え方の修得が不可欠と、私たちは考えております。

教員の移動については、本年3月末に応用細胞生物学研究室の河村幸雄先生がご退職になられました。しかし、本研究室を支える森山達哉先生、財満信宏先生は益々研究を進展させておられ、当該分野は盤石であります。また、本学科はこの春に新任教員として伊原誠先生を講師としてお迎えし、生物情報科学分野を強化しました。

このように当学科はしっかりと足を地につけて進んでおり

ますが、教員の力だけでは、社会に貢献する学生を理想的に育てることはできません。緑友会の会員の皆さま、どうか本学農学部の在校生・卒業生が成長して活躍できるように、お力添えをしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

食品栄養学科

学科長 上嶋 繁



当学科では、平成25年4月1日から臨床栄養学研究室に木戸慎介教授と上西梢契約助手、給食経営管理研究室に稲村真弥契約助手を新たにお迎えしました。また、公衆栄養学研究室の吉川賢太郎准教授が教授に昇格されました。一方、3月末で安在由記契約助手と菊田千景契約助手が退職されました。本年度の管理栄養士国家試験の合格率は89.4%であり、全国の管理栄養士養成課程(新卒)の平均

合格率である82.7%を上回っております。今後も学科の教員が一丸となって、教育・研究に取り組み、食と栄養を通して社会に貢献できる人材を育成するとともに、世に役立つ成果・業績を挙げるよう努力してまいります。今後とも緑友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

環境管理学科

学科長 細谷 和海



当学科は9年目をむかえ、生態学的ならびに社会的視点から、里地・里山の環境を保全・管理することを教育目標に、努めてまいりました。里山学連続講座はすでに39回を数え、ますます発展しています。保全活動が評価され、水圏生態学研究室が環境大臣表彰を受賞しました。一方、海外での諸活動や学生の海外研修も東南アジアを中心に実施されており、学生の視野を広めることに役立っています。

平成24年度に桜谷・久保・若月先生が退職されたことに伴い、学科は、7研究室、15名体制(里山生態学・澤島河内; 水圏生態学・細谷、ジョン; 保全生態学・北川、早坂; 環境化学・坂上、森; 生態工学・奥村、阿部; 国際開発・環境学・八丁、松野; 環境政策学・池上、前潟、鶴田)に再編されました。あらたな環境管理学科の船出です。緑友会の皆様にはたゆまぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス学科

学科長 深溝 慶



当学科での最近の大きな出来事はやはり、「クロロニン」で大変大きな研究成果を収められ、世界的に有名な角田幸雄先生が定年でご退職になられたことでしょうか。多くの高校生たちがこの「クロロニン」というキーワードに魅せられて、このバイオサイエンス学科を志望し、入学し、動物発生工学研究室を巣立っていきましました。我々教員一同、角田先生のご業績には本当に敬意を表する次第です。動物系の研究室は、加藤(容)、



田辺、谷の三人の教員で引き継がれています。もちろん、植物系(重岡、川崎、田茂井、ネルソン、武田)、微生物系(内海、加藤(明)、バイオマテリアル系(高谷、深溝、北山、大沼)に属する教員も、角田先生のご業績に少しでも近づこうと日夜研究に励んでいます。

大学院生は大学における研究の原動力

大学院農学研究科長 江口 充



農学部緑友会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。現在、農学研究科には131名の大学院生が在籍しております。この大学院生の数は、総合理工学研究科に次いで2番目の数になります。学部の数に比べて大学院生数の比率は、博士前期課程の場合、農学研究科も総合理工学研究科も10数%と同程度

大学院生は大学における研究の原動力です。ただ、農学研究科の博士後期課程の在籍者は、総合理工学研究科のそれを大幅に上回ります。博士前期課程を経てさらに博士後期課程に進む大学院生の数が多いということは、農学研究科の研究における充実度を示す証左ではないかと考えます。さらに、大学院における専門性を高めるキャリア教育の実践について、さらに真剣に取り組んでいかなければいけないと思っております。

おかげさまで、緑友会から補助していただいております大学院生諸君と共に日々前進してまいりました(別表をご参照ください)。これは大学院生たちの大きな励みになっております。心より感謝申し上げます。

大学院生は大学における研究の活力源であり、原動力です。大学院農学研究科担当教員は今後も近畿大学農学部の教育研究の推進力となるべく、大学院生諸君と共に日々前進してまいりたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第3回 緑友会賞受賞者一覧

博士課程		
専攻	氏名	テーマ
バイオサイエンス専攻	石井 英治	Studies on the activation mechanism of PhoQ/PhoP signal transduction by the connector SafA in <i>Escherichia coli</i> (コネクター-SafAによるPhoQ/PhoP細菌情報伝達の活性化機構に関する研究)
修士課程		
専攻	氏名	テーマ
農業生産科学専攻	東田 景太	アブラムシや寄生植物由来のにおい物質に対するシヨクガタマバエ成虫の誘引反応
	岸川 彰宏	ゴマ種子の初期成熟過程で特異的に発現される遺伝子の機能解析
水産学専攻	大西 克行	餌と水温が養殖クロマグロの遊泳に及ぼす影響
	水野 裕太	マナマコ精子の凍結保存方法
応用生命化学専攻	妹尾 文哉	親水性イオン液体[BMIM][C]耐性菌の探索及び生産する酵素の特性
	金井 康貴	糖代謝異常におけるライフステージ別の運動の改善効果 ~糖代謝異常を併発する高血圧モデル動物を用いて~
	宇野 喜晴	Ethyl gallate から octyl gallate glycoside および fluoro octyl gallate の酵素合成
環境管理学専攻	森下 匠	日本産ホトケドジョウ属魚類の初期発育の比較
	乾 偉大	Osteology of <i>Parabotia curta</i> (Temminck and Schlegel) with comment on its systematic position (骨格系から見たアユモドキの系統的位)
バイオサイエンス専攻	植田 健陽	大腸菌ヒスチジンキナーゼに相互作用する膜小タンパク質の探索と機能解析
	小林 稔弘	ウッドプラスチック(混練型WPC)の試作

農学部の近況

事務長 佐野 真紀恵



農学部緑友会会員の皆様には、日頃のご活躍とますますのご発展をお喜び申し上げます。また、平素は、近畿大学農学部の発展に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。農学部が奈良キャンパスに移転し、25年を迎えようとしております。食・生命・生活・環境、ものごとの源になる学びを得られる農学の力が

今、世界に求められており、その期待に添うべき学びを、この奈良キャンパスより発信しているという強い自負を感じております。学部の向上心に呼応した結果として、学力優秀な新入生の入学、就職状況94%の内定という結果を導いております。教育の向上に伴い、施設設備の充実も図っております。秋には、恒例の農学部祭が行われます。緑友会の皆様には足をお運びいただき、変化していく農学部を感じていただければと思っております。最後に、緑友会会員の皆様のご健康とご協力、ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。



新入生の夢

私の夢

農産生物学科 一回生
森 大輔

私が近畿大学農学部農産生物学科を目指した理由は、高校の時から生物の授業が他よりも楽しく興味を持って勉強することができていて、特に植物に関心を抱いていたからです。そして大学では植物の勉強をしていきたいと思うようになっていきました。しかし、具体的に将来なりたい職業や大学ではどういう事について研究したいかなどは全く決まっていりませんでした。そんな中で入学して講義を通して先生方の話を聞いていくうちに農業には多くの問題があることを知りました。そのなかで一番重要だとおもったのは急激な人口増加に対応



する食糧確保です。この問題を解決するための一つの手段として作物を病原菌や害虫から守り、生産量を上げるとい

うものがあります。病原菌や害虫なんて農薬をまけば防げませんが、作物を守るために大量の農薬をまくという事は食の安全を脅かすリスクがあり、またなによりも環境を破壊し生態系への悪影響があります。人間は自然界の中で生かされていると私は思います。自然との共生なしに人類の未来はないのです。なので私の夢は作物を環境に悪影響を与えずに守る方法を作りだすことです。今は全くの無知ですが四年間の大学生活を充実させ、自分の夢を叶えるために一歩一歩前進していきたいと思っています。

ウナギ完全養殖の産業化の夢

水産学科 一回生
須崎 慶

私は小さい頃、両親によく自然の多い環境に連れて行ってもらいました。その為、いろいろな生物と触れ合う機会が多く、中でも魚に対してはより強い興味が育まれました。

私にとって、魚は見ているだけでも楽しく、食べてもこれまた美味しいので至極の生物なのです。私たち人間は魚を乱獲することがあり、絶滅危惧種が増えつつあります。これを少しでも食い止め、後世に様々な魚の美味さを伝えるべく、私は近畿大学水産学科に入学しました。私が絶滅させまいと考えている魚種は最近話題のニホンウナギです。現在、ニホンウナギの養殖は天然のシラスウナギを種苗にするため資源は減る一方です。天然資源に依存しない完全養殖シラスウナギを低コストで作る方法を開発し、一般の人が手軽に安全に、ニホンウナギの美味さを味わえる未来を作るのが私の夢です。

私の夢

応用生命化学科 一回生
佐藤 魁

私は興味のあることや、やりたいことはあってもまだ明確な夢と呼べるものが見つかっていません。しかし、生物の生命活動に関するメカニズムや、遺伝子との関係といったことを学び、それを医学、薬学的な分野に応用した研究がしたいと思いついて生命化学科に入学しました。

近年バイオテクノロジーはめまぐるしい発展を続けています。クローン技術やIPS細胞の発明などにより、これからの再生医療は一昔前では考えられないほど優れたもの



緑友会主催 近畿大学食品栄養学科 新入生歓迎会 平成25年4月7日 於 薬師寺

将来の私

環境管理学科 一回生
村岡 正貴

入学してから半年が過ぎた。一人暮らしにも慣れ、大学での勉強のリズムもある程度つかんだ気がする。近畿大学の研究室は興味深いところばかりだ。里山修復や地域の活性化、外来種の調査や駆除、自然界での物質循環などどれもじっくり取り組みたい。私は大学で多くの教養をつけ、研究することを通し、将来は自然環境の保全や地域の活性化に携わることのできる仕事をしたい。具体的には、農学や林学、環境化学の県職員を考えている。

私は自然の多い町で育った。しかしそこは少子高齢化が目立ち豊富な林業資源や多くの田畑が利用されていない。このような地域は他にも多数あるだろう。木材や野菜は価格競争力が外国産に劣ることは知っている。しかし私はそれを眺めるだけではなく、県が行っている環境保全、ブランド化などの取り組みに自分も職員として関わりたい。近畿大学での生活は楽しい。仲の良い同級生も多くて、クラブ活動では尊敬できる先輩ばかりだ。そのように恵まれた環境の中で、私は協調性や幅広い視野をさらに培い、一人前の社会人になりたいと思う。

「私と食」

食品栄養学科 一回生
小倉 あづき

幼いころから家族と囲む食卓に大きな喜びを感じていた。両親との食事はもちろん、祖母がたまに訪れて作るおぼんざいは、離れて暮らす今でも忘れられない。私がフードコーディネーターを志すきっかけとなったのは、この日々繰り返される日常であつた。

近畿大学入学と同時に一人暮らしを始めた。自炊をするようになり、調理の手間や孤食の心細さ、何より両親の有り

難みを実感することとなった。将来は管理栄養士の資格を取得し、食品開発に携わることが夢である。そして、忙しい働く人たちの手軽な食事を少しでも温かみのあるものにする、家庭での「もう一品」を提供することが目標である。「インスタント」というと聞かえが悪いが、私はこの負の概念を払拭する即席商品世に送り出したい。また、盛り付けの色味からパッケージのデザインまでこだわりたい。夢の実現に向けて、大学では視野を広く持ち、多方面から「食」に関わりたい。夢は膨らむばかりである。

科学者を夢見て

バイオサイエンス学科 一回生
後藤 弦器

これまでの人生において、今の私に一番大きな影響を与えたのは、中学生の時に見た東野圭吾著「探偵ガリレオ」のテレビドラマでした。それまでも私は自然や科学が大好きでしたが、これをきっかけとしてさらに科学に興味を持

つこととなり、そして、科学者になりたい！という夢が生まれました。ですが、現実はその甘くはなく、高校の化学、物理はこれといってできたほうではありませんでした。しかし、その中でも生物は得意でとても興味があり、将来これを武器に頑張ろうと思えました。その結果、このバイオサイエンス学科にたどり着きました。現在、自分の中の最終目標



緑友会名簿訂正 (変更) 届

氏名	卒業学科	年度
所属	研究室	
現住所	(〒)	
住所	(〒)	
会社名	住所	
勤務先	(〒)	

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先：〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

原稿募集 会員の皆様から原稿を募集します。題は自由です。緑友会事務局又は研究室の先生宛に御送付下さい。



研究生活、継続中。
農業生産科学科 (平成24年度卒)
北尾麻希子

私は農業生産科学専攻植物・人間関係学研究室を昨年度修了しました。現在は赤澤一三酵素研究所(株)に就職し、健康食品や化粧品原料の研究を行っています。とは言っても、自社の研究もまだありませんが、私は受託研究員として(地独)大阪市立工業研究所で研究をさせていただいています。会社から任された研究は私の専門分野とは異なる微生物発酵であり、実験はゼ

ロからのスタート。研究所の先生に基礎から教えていただき、少しずつ習得しています。なにか新しいことを始めるのは、不安もありますが非常に楽しみでもあります。思い返せば、大学の研究室も私が3年生の時に開設され、何もない状況から始まりました。学生の頃に学んだ、自分でゼ口から考えて行動することが現在の仕事に生かされていると感じます。健康や美容に本当に良い商品を開発することを目指して、今後も試行錯誤しながら研究を進めていきたいと思っています。



私は、日本ハム食品株式会社製造部に所属し、チルドビザライン「石窯工房シリーズ」の製造担当者としています。主な業務内容は、製造数量や機械および原料資材の管理、作業者の安全などです。入社2年目という立場ですが、弊社を代表するラインの一員として非常に責任ある仕事に就かせて頂いております。私達の仕事の目標は「安全に、良い品質の商品を、できるだけ安く作る」ことです。おかげさまでこの「石窯工房シリーズ」はチルドビザ部門国内トップシェアであります。裏を返せばそれだけのお客様に対して責任を果たさなければなりません。非常に管理項目が多いため思ったようにならないことがありますが、そこはまだまだ2年目なだけからと割り切り、大いに周りの助けを求めているようにしています。現在は出身地である大阪を離れ、茨城で生活しています。これまでの友人が多くない環境ですが、自分を鍛

えるには良い環境だと思いい一杯頑張っております。

「責任を与えられる」
水産学科 (平成23年度卒)
安田 拓也

私は、日本ハム食品株式会社製造部に所属し、チルドビザライン「石窯工房シリーズ」の製造担当者としています。主な業務内容は、製造数量や機械および原料資材の管理、作業者の安全などです。入社2年目という立場ですが、弊社を代表するラインの一員として非常に責任ある仕事に就かせて頂いております。私達の仕事の目標は「安全に、良い品質の商品を、できるだけ安く作る」ことです。おかげさまでこの「石窯工房シリーズ」はチルドビザ部門国内トップシェアであります。裏を返せばそれだけのお客様に対して責任を果たさなければなりません。非常に管理項目が多いため思ったようにならないことがありますが、そこはまだまだ2年目なだけからと割り切り、大いに周りの助けを求めているようにしています。現在は出身地である大阪を離れ、茨城で生活しています。これまでの友人が多くない環境ですが、自分を鍛



日々ではあります。大学で培った観察力と思考力として不屈の精神で、これからの植物の可能性に挑戦していきたいです。

「病院の管理栄養士としての仕事」
食品栄養学科 (平成24年度卒)
松倉美由樹

私はこの春、食品栄養学科を卒業し、奈良県にある病院で管理栄養士として勤務しています。入職して3ヶ月間は厨房で調理方法や配膳の流れなど調理現場の仕組みを学び、経験しました。現在、検品や食事箋の変更、献立の作成などを中心に業務を行っています。

当院は、精神疾患や認知症などの患者様が多数であり、心の健康回復のため総合的に取り組んでいます。患者様と関わることで感じたことは、嚥下が困難な方に食べやすい食形態の提案や食欲の無い方に少しでも食べていただくための配慮や工夫が必要だということです。精神療養型の

私は平成25年に卒業し、現在、勉強・研究してまいりました。その中で環境にも人体にも負荷の少ないものづくり(特に消費者としてこだわりがあった洗剤)に携わりたいと思い、インターンシップを経て弊社に入社いたしました。弊社では大手スーパーや飲食店などの業務用の洗剤や、公共トイレなどの公衆衛生に関わる洗剤の開発に携わっています。業務中も大学の時と同様にクリーンベンチで微生物試験や殺菌試験を行っています。学生時代は、研究が上手いかわりに論文にできない場合は全て自己責任で済んでいました。しかし、企業(メーカー)での研究は大学における研究とは違い、自己責任から会社全体の責任になってしまいます。決められた価格、要望に対して一定期間に必ず商品を開発しなければなりません。生活の安心安全を商品という形でお客様にお届けしなければならぬというプレッシャーの中で日々、研究生活を楽しくしております。今後、素晴らしい商品開発ができるように近畿大学農学部で得た知識、技術、思い出と

やる気があれば何でもできる
環境管理学科 (平成24年度卒)

私は平成25年に卒業し、現在、勉強・研究してまいりました。その中で環境にも人体にも負荷の少ないものづくり(特に消費者としてこだわりがあった洗剤)に携わりたいと思い、インターンシップを経て弊社に入社いたしました。弊社では大手スーパーや飲食店などの業務用の洗剤や、公共トイレなどの公衆衛生に関わる洗剤の開発に携わっています。業務中も大学の時と同様にクリーンベンチで微生物試験や殺菌試験を行っています。学生時代は、研究が上手いかわりに論文にできない場合は全て自己責任で済んでいました。しかし、企業(メーカー)での研究は大学における研究とは違い、自己責任から会社全体の責任になってしまいます。決められた価格、要望に対して一定期間に必ず商品を開発しなければなりません。生活の安心安全を商品という形でお客様にお届けしなければならぬというプレッシャーの中で日々、研究生活を楽しくしております。今後、素晴らしい商品開発ができるように近畿大学農学部で得た知識、技術、思い出と

共に日々邁進して参りたいと思います。

今できることを、今しかできないことを
バイオエッセンス学科 (平成25年度卒)
長橋ゆかり

現在、大阪府藤井寺市の中学校で理科の教諭として勤務



しています。今年初めて2年生の学級担任になりました。また、私自身は吹奏楽の経験しかありませんが、縁あって男子バレーボール部の顧問をしています。技術指導ができず、一緒に居ることしかできないことにもどかしくなる時もありますが、生徒から多くのことを教わる日々です。学級や授業も、自分の力不足なことへの不安や焦りを抑えきれない時もありますが、そんな私を支えてくれるのは大学の友人や先輩、後輩、お世話になった先生、研究室での思い出です。今は、大学での出会いに心から感謝しています。職員室では「生徒か?!」と言われながら、職場の先生方に温かく支えて頂いています。その度に「学校の役に立てられるように、他の先生に恩返しできるように頑張ろう。」と心に強く思います。「成せばなる成さねばならぬ何事も。今、この瞬間に自分ができていることを全てやり切ろう。」明るく前向きに私らしく成長したいです。

現在、大阪府藤井寺市の中学校で理科の教諭として勤務



現在、大阪府藤井寺市の中学校で理科の教諭として勤務

在学生だより

近大ハーブソルトプロジェクト

農業生産科学科
植物人間関係学研究室四回生
和田 典之

私の研究室では、機能性に優れた野菜や植物の香りをもたらし生理的効果を研究しています。そこで、研究成果を近大ハーブソルトとして世の中に送り出せないかという企画を進めています。その中で、栽培・出荷部会のリーダーとして携わっています。この企画は、昨年の屋台でハーブソルトを使ったポテトが好評であったことがきっかけで発足しました。私はこの企画を富先生から伺ったとき、いちら商品化にむけて行う経験が就活に役に立つだろうと直感し、参加を決定しました。

「クロマグロ仔魚の色覚実験」

水産学科
水産増殖学研究室四回生
谷口 友希

私は、幼いころから海や魚、泳ぐことが大好きだったため、水産学科に入学しました。様々な講義や実習を通じてクロマグロの完全養殖をさらに学びたいと思い、水産増殖学研究室を選びました。卒業研究はクロマグロの色覚をテーマにしています。まだ分かっていないクロマグロ仔魚の色覚の認識や行動変化を発見し、より効率の良い養殖の実現を目指しています。

汗と涙と自転車と

応用生命化学科
食品微生物工学研究室四回生
金水 渉

毎日、息を切らしながら、近大坂を自転車に乗る日々も終わりを迎えようとしています。思い返せば想像以上に内容の濃い大学生活を過ごすことができました。

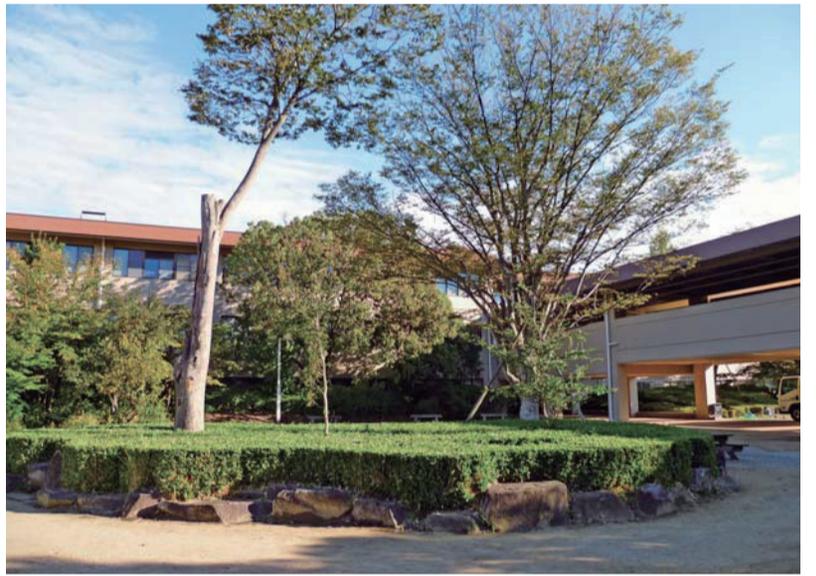
大学生生活を通して

食品栄養科学科
給食経営実習学研究室四回生
福田 真弓

このように素晴らしい大学生活を送れたのも自分を支えてくれた家族、友達、先輩、後輩のおかげだと思います。感謝の気持ちでいっぱいですが、ありがとうございます。

大学に入学してから今日まで、あつという間に時間が過ぎました。高校の時は、どちらかという内面的で、自分に自信がありませんでした。そんな性格を変えたいと思い、大学生活の目標を「様々なことに挑戦する」「最後までやり遂げる」とし、勉強・クラブ・アルバイト・ボランティア活動などに邁進しました。その中で大勢の人の優しさや厳しさに触れ、人との関わりを通して大きく成長できました。特に、人と心を通わせることができた時の喜び・チームワークのすばらしさなどを経験することによって、

この時期に来て、私はまだ、自分のこの先を決定できていません。何か一つの分野について深く勉強することができず、どれも中途半端なところがあったからです。しかし、自分のことは置いといて言い訳させて頂くと、私の周りには、興味を十分すぎるほど持たせてくれる環境が、人が、揃いすぎている。鳥に関する研究がしたいと思



早かった3年半

バイオサイエンス学科
バイオ分子化学研究室四回生
河合あかね

この大学に来ましたが、しかしまさか、講義のない時間に昆虫採集へ行ったり休日には県外にガサへ行ったり、とにかく、ここまで生き物漬けの大学生活になるとは思っていりませんでした。研究室内の友人はもちろん、部活の友人や先輩方も、自信を持って得意と言える分野のある人がたくさんいて、今まで広く薄く薄く知っていたものを、少しずつ深くしていけるような機会を、刺激を、与えてくれます。例えば研究室の実習先でも、メインであった海の生物についてだけでなく、フナムシやコウノトリなど予想外に得るものもたくさんありました。早朝も夜間も関係なく様々な興味を駆り立ててくれる方々に、感謝しています。おかげで興味の対象が増えすぎて、この研究室で合っていたのかと不安な時期もありましたが、浅い知識でも、今後生かすことができるかは自分次第ではないか、やはりここで良かったと思えるようになりました。これまでの経験で自分の強みに変えていけるように、中途半端からまずは一歩ずつ、この先は自分が周りに発信できるくらいのもので、持って、学んでいきます。

私が大学に入学してから、早いものでもう3年半の月日が経ちました。今、大学生活を振り返ってみると、私の中でやはりサークル活動が最も大きな出来事として印象に残っています。バレーボール同好会に入り、2回生からは練習部長として活動しました。私は今までリーダーシップをとることが苦手でしたが、練習部長という役職を通して、人に指示を出し全体をまとめるといったことだけがリーダーシップではないと気が付き、1番うしろに立って全体を見ながらムードメーカー的存在として場を盛り上げるという自分なりのリーダーシップの取り方を見つけたことができた。サークルを引退した今は、力の入れ所を研究室に移し、不器用な私は失敗ばかりではあります。日々有機合成の研究に打ち込んでいますが、半年後には社会人になりませんが、大学生活で学んだたくさんさんのことを糧にして、会社に入ってもまわりの人達への感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやれる温かい人になれるよう努力していきたいです。



アーマリン近大

近大の魚と 近大の味
近畿大学 水産研究所

大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪北館6階
TEL:06-6485-7103
ランチ 11:00~15:00
ディナー 17:00~23:00
※食材が無くなった場合、営業を終らせていただく場合がございます。

アーマリン近大は
安心・安全・美味しい魚を
提供します

〒649-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町1-5
TEL:0739-42-4116
FAX:0739-42-2600
Mail:info@armarine.co.jp
URL:http://www.armarine.co.jp

あなたの企業のお手伝い
photo shop **イナダカメラ**

21世紀へ
ニューメディア
プリント

八尾市服部川7丁目153
TEL 0729 (41) 0909 / FAX 0729 (41) 0934
携帯 09037290909
代表者 稲田 忠明 (農学科 昭和43年度卒)

「いいね!」は
現地でね。

城崎マリンワールド
Small discoveries in the big ocean.

大学院生だより

新しい環境での

大学院生活

農業生産科学専攻博士前期課程
植物・人間関係学研究室

原 千明

私は修士課程進学を機に、関東の大学からこの近畿大学にやってきました。私は学部時代、ハーブの収穫時期の違いが香気成分に与える影響について研究していました。しかし、次第に香りが人に与える影響に興味があり、修士課程ではその事について研究したいと思うようになりました。現在私が所属している植物・人間関係学研究室では、香りが人に与える影響について心理・生理的側面から研究を進めています。今までは研究分野が違いため戸惑う事も多いですが、その反面、新しく知る事が沢山あり日々刺激を受けています。

水産経済学研究室 大学院生生活
水産学専攻博士前期課程
水産経済学研究室
中村 太一

我々、水産経済学研究室では経済学、経営学、統計学、資源学等の視点よりどのように水産物を持続的に利用し市場に流通させ利潤が出来るシステムを作り上げるかを研究している研究室です。研究活動において研究室に閉じこもって研究するだけでなく、量販店や漁協等にヒアリング調査を行い、ヒアリング先の担当者や話し合い、自らの研究テーマに関する有益な生の情報を聞き出したりもします。よって我々の研究では自らの頭の中だけでなく、実際に外の世界にでて人と話したりすることで、より自らの研究がリアリティにあふれるものになることを第一に考えております。また我々の研究室では学生の主体性を第一に考える為、研究室の運営や自らの研究テーマも学生自らが考えます。その為、研究室では日々学生同士で議論を重ね、自己の研鑽に動んでおり大変、活気に溢れる熱意のある研究室です。そして就職活動においても我々の研究室では例年、食品メーカーや商社など素晴らしい実績を残しております。この素晴らしい実績の背景には恐らく先述した学生の主体性を第一に考える研究室の基本方針があるのだと思います。自らの課題、そして問題点をみつけだすという社会人において必要な能力を学生のうちに身につける訓練をしています。それが輝かしい就職実績につ



も身につきます。何より、自分で考える力が付きます。先生や先輩に研究について相談したり、友達と成果について語り合ったり、また時には研究から離れて先生と一緒に飲み会等で盛り上がることもあります。頼れる先生や仲間が囲まれて一回りも二回りも成長出来る環境です。

Enjoy Thai
カフェスタイル空間で手軽に本場タイ料理を楽しんでいただくお店
“エンジョイタイ”

ランチ 11:30~14:00
ディナー 17:30~23:00 (L.O. 22:00)
定休日：第3土曜・毎週日曜
住所：〒540-0036 大阪市船越町1-2-9 1F
電話：06-6809-7512 Fax：06-6809-7513
HP：http://enjoythai.gourmet.coocan.jp/
Mail：enjoythai@mbr.nifty.com
Facebook：Enjoy Thai Twitter：EnjoyThai77
代表者：村上 仁伸（農学部国際資源管理学科1997年卒業）

大学院で学べることは研究の知識だけではありません。発表の場に立つ機会が多くなるので発表スキルも身につきますし、そのための調べる力



の下級生の指導などを通してこの半年間で多くのことを学びました。学部生の頃と比べてやるべきことはたくさんありますが、これまでにない充実感を感じています。大学院を修了する際に、この選択が間違っていないかと言えらるるよう、大学院での生活で一回りも二回りも大きく成長し、大学院に進学して本当によかったと思えるように日々頑張っていきたいと思

一つの選択
応用生命化学専攻博士前期課程
栄養機能学研究室
赤穂 慧介

大学院で充実する日々
環境管理科学専攻博士前期課程
国際開発・環境学研究室
寺谷 卓真

昨年、私は、一つの決断をしました。それは、大学院への進学です。私は学部生の頃、早く就職することだけを考えて、大学院への進学など考えてもいませんでした。しかし、研究室に所属し卒業研究を行っていく際、その考え方は大きく変わりました。難しいことへの挑戦や物事を多方面から考えることなど、研究することへの楽しさを感じるようになりました。また、深い専門知識を身に付けていくと共に自分自身の成長に繋がると感じたため、大学院への進学を選びました。現在、この研究室に所属して約半年経ちましたが、研究以外にも四回生や学生実験で

大学院で経験できたこと
バイオサイエンス専攻博士前期課程
動物発生工学研究室
松下 淳

私は、様々な発生工学技術を駆使して、畜産や医療への貢献を目指す動物発生工学研究室に感銘を受け進学を決めました。大学院に入ってから、学部時代に学んだ知識と技術を生かして研究にのめり込み、とても充実した生活を送っています。去年の5月には、研究室が中心となり日本哺乳動物卵子学会（現日本卵子学会）を開催し、スタッフの一員として微力ながらも学会運営にたずさわることができました。学会は名前の通り動物の生殖細胞を扱った研究や報告ばかりで非常に勉強になりましたが、それと同時にスタッフ作業などを通してかつての先輩方と交流を持つことができ、多くの刺激を受けました。このような各分野の第一線で活躍されている方達との交流は、私にとって研究に対する姿勢やモチベーションの向上につながり、人間的に成長することのできた大変貴重な経験でした。



フロリダバスの本場で
環境管理科学 水圏生態学研究室
北川 忠生

平成25年9月1日より1年間の予定で、アメリカ合衆国のフロリダ大学にて在外研究をおこなっています。大学があるゲインズビルは、自然豊かな田舎町で、キャンパス内にはリスがそこら中を走り回り、池には野生のワニまでもが棲息しています。街中のショップで、フロリダ大学のグッズが売られるなど、とても地域に愛されている大学です。



ここでは、日本で在来生態の破壊をもたらしているブラックバスの一亜種であるフロリダバスに関する遺伝学的研究を実施しています。私は、このフロリダバスが日本に持ち込まれ、ひそかに日本中に分布を広げている実態を15年以上調査してきました。その原産地で、現地の研究者と連携して生の研究が出来る事は大きな喜びであり、大変意義深いものです。このような機会を与えていただいた大学及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



教員・学生の受賞

教員

平成24年11月以降 (学年は受賞当時、受賞日順に記載)



東田景太くん (右から3人目) 梅本尚之くん (左)

受賞者	所属 (受賞時)	受賞学会	受賞内容	タイトル
重岡 成	バイオサイエンス学科教授	2013年度日本農芸化学会	農芸化学会賞	「光合成生物の環境ストレス応答・耐性の分子機構に関する研究」
高木 力	水産学科教授	平成24年度日本水産学会	水産学技術賞	「漁具の動力学モデルとその数値シミュレーション」
飯嶋 盛雄	農業生産科学科教授	第235回日本作物学会 (2013年3月28日)	第10回論文賞 (平成25年度)	Control of soybean nodule formation by the newly proposed cultivation method of crack fertilization technique.
水圏生態学研究室 (代表:北川 忠生)	環境管理学科	環境省	「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰	「ニッポンバラタナゴ保護活動」

学生



平成25年4月23日 「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

北川忠生准教授 (最後段右から2人目) 田中和徳環境副大臣 (最前列中央)

受賞者	所属 (受賞時)	受賞学会	受賞内容	タイトル
高橋 一生	バイオサイエンス専攻 M2	日本油化学会フレッシュマンサミットOSAKA 2012	学生奨励賞	「天然物が示す多様な反応性:ゼルンボンの渡環反応による新規骨格の構築」
小林 稔弘	バイオサイエンス専攻 M2	BIOCOMP2012	ポスター賞	「The Properties of Wood Flour-Plastic Composites (WPC) with a High Filler Content Using Two Molding Process」
梅本 尚之	バイオサイエンス専攻 D1	日本農芸化学会関西支部第477回講演会	優秀発表賞	新規糖誘導体N-アセチルキトオリゴシルモラノリンの阻害特性:GH22リゾチームとGH19キチナーゼの阻害。
加治馬香苗	バイオサイエンス専攻 M1	第63回日本木材学会	優秀ポスター賞	「新規天然材料を用いた接着剤の合成とボードの製造」
山田 健太	バイオサイエンス専攻 M2	平成25年度日本植物病理学会大会	学生優秀発表賞	OsCERK1を介したキチン信号伝達系におけるOsRLCK2の機能の解明
梅本 尚之	バイオサイエンス専攻 D2	第14回関西グライコサイエンスフォーラム	優秀発表賞	新規糖誘導体N-アセチルキトオリゴシルモラノリンの阻害特性:GH22リゾチームとGH19キチナーゼの阻害。
大島 久美	バイオサイエンス学科・研究員	第4回日本光合成学会年会および公開シンポジウム	ポスター賞	C/Nバランス制御の初期応答に及ぼす光合成機能強化の影響
東田 景太	農業生産科学専攻 D1	3rd International Entomophagous Insects Congress (第3回 国際昆虫捕食性昆虫会議)	ポスター賞	Ovipositional preference for aphid species by <i>Aphidoletes aphidimyza</i> (Rondani) . (シヨクガタマバエによるアブラムシ種間の産卵選好)

農学部教職員テニス部は、平成10年に創設ができたが、正規に発足しました。教職員の福利厚生のための親睦会として初めてできた農学部での同好会です。当初は、学部長に会長を務めていただきました。平成11年の会員数が27名を数え、2面では足りないほどの会員数でした。互助会テニス大会では、毎年のように優勝準優勝の栄誉を受けています。学外活動では、奈良市民テニス

農学部教職員テニス部 (テニス同好会)について
会長 食品栄養学科 教授 吉川賢太郎



平成25年11月3日(日) 14時から、食品栄養学科卒業生の会「KINKAN会」イベントを開催しました。今回のテーマは「若手管理栄養士の育成」即戦力を求めて、先輩から後輩への提言」としました。学校から社会に出て間もない若手時代というのは、学校で学んだことと即戦力として社会で求められることとの間にギャップを感じ十分に対応しきれていないと悩むことが多く、また中堅やベテラン

ス大会、奈良県教職員テニス大会、奈良県大学・高専教職員テニス大会等に参加しています。現在では、農学部教職員テニス部の中でチーム(OB教員、他学部教員を含む)を作り枚方リーグに参加し、見ず知らずのチームと対戦して楽しんでいきます。また、農学部学生テニス同好会の顧問が変わったことをきっかけに、農学部テニス大会に教職員テニス部の方々が多数参加され



るようになり変りました。これからは、顧問が教職員テニス部所属ということもあり、今までにない、教職員テニス部の発展に努力していく所存です。

さらに今回は、外部からのゲストとして、大阪市立大学生活科学部食品栄養学科特任助教の加藤久美子先生にアメリカでのRD(登録栄養士)時代のご経験や日本の栄養士養成システムとの違いについてのご講演をいただきました。パネルディスカッションには加藤先生にも加わっていただき、教育される側、教育する側各々に必要とされる力や心構え、体制等が挙げられましたが、どちらの側にも課題はあり、どちらか一方ではなく、お互いの歩み寄りや努力

の管理栄養士にとっても、若手管理栄養士を育成する中で教育方法に悩んだり、その道のプロや一社会人として自らを見つめなおす機会に直面することがあるかと思えます。そのような背景から今回のテーマを掲げ、パネルディスカッション形式をとり、各職域の卒業生にパネリストとしてご参加いただきました。

緑友会会報はその間、時代に即した情報を発信し、現在の形式となりましたが、いずれにせよ同窓生と母校、さらには同窓生間をつなぐ太いパイプの一つを果たしていることを確信しています。

編集後記
農学部が東大阪に発足して56年目、平成元年に奈良に移転してから25年目を迎えました。緑友会会員も増え、これまでに総数約2万9千名弱となりました。大きな同窓会となりました。緑友会会報は、私が近畿大学に職を移した一九九五年に産声を上げ(第一号の編集委員長・藤田藤樹夫先生、当時の会員総数・1万3千余名、今年で18年目となります)。

お忙しい中快く引き受けてくださった加藤先生、パネリストとしてご参加いただいた卒業生の皆さん、本当にありがとうございました。また各期運営委員の皆さんや学内の先生方のご協力を得て無事に開催できたことを感謝致します。



第4回KINKAN会イベントを終えて
第4回イベント企画代表・5期生 渡辺 紗弥佳

平成24年度近畿大学農学部緑友会事業報告

月日	項目	場所
4. 25	運営委員会	C会議室
6. 23	幹事会	第1会議室
7. 6	1) 平成23年度事業報告 2) 平成23年度決算報告 3) 平成24年度事業計画 (案) 4) 平成24年度予算 (案) 5) その他	
9. 14	終身会費納付書発送 (612通)	
9. 21	在学生名簿調査完了	
12. 21	終身会費納付書2回目発送 (425通) 会報第17号会員へ発送	
平成25年 1. 16	終身会費納付書3回目発送 (263通)	
1. 16	終身会費未納者を6学科に通知	
3. 5	委員会	C会議室

平成24年度近畿大学農学部緑友会(卒業者部会)決算 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	3,074,760	郵便費	1,274,683
終身会費(繰越5名分)	50,000	印刷複写費	1,390,287
終身会費	4,300,000	会議会合費	56,237
広告掲載料	80,000	人件費	1,173,604
会報印刷・郵送代の負担金(学生部会より在学生分)	266,400	緑友会賞	140,000
利息	573	雑費	117,288
合計	7,771,733	支出の部計	4,152,098
		次年度繰越金	3,619,635
合計	7,771,733	合計	7,771,733

会計幹事 吉川賢太郎 会計幹事 松田 克礼
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
平成25年3月31日
監事 小林 徹
監事 武田 徹

訃報
食品栄養学科 元教授 獅山慈孝先生がご逝去されました。(平成二十五年一月) 農芸化学科 元教授 杉原彦一先生がご逝去されました。(平成二十五年二月) ご冥福をお祈りします。

今回事業報告の発行を無事終えることができましたが、これは、情報を発信する緑友会会員のご理解とご協力、そして緑友会会員の支えがなくてはなりません。今後とも緑友会会報を同窓生の話題の一つに添えて頂き、相互間で益々交流を深めて頂ければと存じます。

最後にになりましたが、近畿大学農学部ならびに同窓会会員各位の益々のご発展を祈念いたします。

編集委員長 北山 隆

